

【原文】

吾所以告子〔一〕，道畢具。乃能使帝王保得天地之權心〔二〕，天下羣神〔三〕徧說，岐行動搖之屬，莫不悅〔四〕喜，夷狄却降，瑞應悉出，灾害悉〔五〕除，國家延命，人民老壽。審能好善，行〔六〕吾書，惟思其要意〔七〕，莫不響應，比若重規合矩，無有脫者也。

欲與國千斤金〔八〕，不若與一要言，以致治太平，除灾安天下〔九〕。古者帝王〔一〇〕，未常患財貨〔十一〕，乃患貧於〔十二〕，愁大賢不〔十三〕至，人民〔不〕聚〔十四〕，皆欲外附，日以踈〔十五〕少，以是不稱皇天之〔十六〕心。若積金玉奇物〔十七〕，縱橫〔十八〕千里，直〔十九〕上至天，終不〔二〇〕致大賢、聖人、仙士來賴助帝王之治〔二一〕。吾書乃三光神吏常隨而照之〔二二〕。

【校勘】对校本：『太平經』卷四十六「道無價卻夷狄法第六十二」

（敦煌鈔本 S4226 作「太平經卷第四十六道无價卻夷扶治第六十二」。

〔一〕經作「今吾所與子」。

〔二〕經作「迺能使帝王深得天地之歡心」。

〔三〕經作「天下之羣臣」。

〔四〕「悅」經作「忻」。

〔五〕「悉」經作「畢」。

〔六〕「行」上經有「案」字。

〔七〕經作「唯思得其要意」。

〔八〕經作「故賜國家千金」。

〔九〕經云「不若與其一、要、言、可、以、治、者、也。與國家萬雙璧玉，不若進二大賢也。夫要言大賢珍道，乃能使帝王安枕而治，大樂而致太平，除、去、灾、變，安、天、下，此致大賢要言奇道，價直多少乎哉」。

〔一〇〕經作「故古者聖賢帝王」。

〔一一〕經作「未嘗貧於財貨也」。

- (二二) 經作「乃常苦貧於土」。
- (二三) 經作「大」。
- (二四) 經作「不聚」。
- (二五) 經作「疏」。
- (二六) 經無「之」字。
- (二七) 經作「積金玉璧奇偽物」。
- (二八) 經作「橫縱」。
- (二九) 經無「直」字。
- (三〇) 經作「不能」。
- (三一) 經作「使來輔治也」。
- (三二) 「神」上有「之」字。
- (三三) 經作「照視之也」。

### 【訓読】

吾れ以て子に告ぐるところ、道ことごとく具う。乃ち能く帝王をして天地の懽心を保ちて得しめ、天下の群神をして徧く悦ばしめ、岐行動搖の属いをして悦喜せざるなかしめ、夷狄をして却きて降せしめ、瑞応をして悉く出でしめ、災害をして悉く除かしめ、国家をして命を延ばさしめ、人民をして老寿たらしむ。まことに能く好みて善しとし、吾が書を行い、其の要意を惟思すれば、響応せざるなく、ならべて規に重ねて矩に襲ぬ、脱する者有る無きがごときなり。

国に千斤の金を与えんと欲するは、一要言を与え、以て治を太平に致し、災いを除き天下を安んずるに若かず。いにしえ、帝王は未だかつて財貨を患えず、乃ち士に貧きを患い、大賢至らず、人民聚めず、みな外に附かんと欲し、日に以て疎少なり、これを以て皇天の心に稱えざるを愁う。金玉奇物を積み、縦横たること千里、直上して天に至るが若きは、終に大賢、聖人、仙士來たり、頼りて帝王の治を助くるを致さず。

吾が書乃ち三光の神吏常に隨いて之れを照らす。

【翻訳】

私があなたに教えた道書の中には、道がすべて揃っている。これこそは帝王が天地の歡心を買ってその状態を保ち<sup>一</sup>、世の中の神々が喜び<sup>二</sup>、虫のたぐい<sup>三</sup>でさえも喜ばないものがなく、夷狄が降参<sup>しやうさん</sup>して撤退し、瑞応が現れ、災いを払い、政權が長く続く<sup>四</sup>、国民が長生きする<sup>五</sup>ようにさせることができる。ほんとうに良いものと認めて大事にし<sup>六</sup>、私の道書の教えを実行し、その大事な意味をよく考えれば、応えないことがなく、たとえばコンパスや差し金で描いた円と角とがあい重なり<sup>七</sup>、外れることがないと同じだ。

国に一千斤の黄金を寄付しようとするのは、一道書<sup>八</sup>を（帝王に）進呈し、それによって世の中を太平な状態にし、災いを払い、天下を安定させることに及ばない。いにしえ、帝王はこれまで財貨を心配しなく、逆に士人不足に不安があり、大賢が来なく、国民が国内に居らず<sup>九</sup>、ほかの国に寄りそおうとし<sup>一〇</sup>、（人口が）日に日に減少し、それによって天の心に添わなくなることを心配する。財宝や珍しいものを貯えることに至っては、千里の土地を覆い、空に届くまでに積み上げても、結局、大賢、聖人、仙士を招き寄せ<sup>一一</sup>、帝王を補佐してもらうことができない。私の道書はいつも日、月、星の三光<sup>一二</sup>神官がそれを照らしている。

一 保得天地之歡心

『孝經』孝治「故得萬國之歡心，以事其先王」，「故得百姓之歡心，以事其先君」，「故得人之歡心，以事其親。」<sup>1</sup> 2551~2552。『漢書』刑法志「聖人既躬明愨之性，必通天地之心，制禮作教，立法設刑，動緣民情，而則天象地。」<sup>1079</sup>

二 羣神偏說

『尚書』舜典「肆類于上帝，禋于六宗，望于山川，徧于群神。」<sup>126</sup>。『經』卷五 十去浮華訣「是以聖人欲得天道之心意，以調定陰陽，而安王者，使天下平，群神遍悅喜。」<sup>50.8b</sup>

三 蚊行動搖

『淮南子』俶真訓「有有者，言萬物摻落，根莖枝葉，青蔥苓龍，萑蘆炫煌，蠓飛蠕動，蚊行噲息，可切循把握而有數量。」。『鈔』癸部卷十·賢不肖自知法「日月列星，五行四時，六甲陰陽，萬物蚊行動搖之屬，皆不空生。」10.7a。

四 國家延命

『漢書』王莽傳上「賴蒙陛下聖德，扶服振救，遮扞匡衛，國命復延。」4028

五 老壽

『左傳』昭公二十年「鬼神用饗，國受其福，祝史與焉，其所以蕃祉老壽者，為信君使也，其言忠信於鬼神。」2092

六 好善

『周禮』夏官司馬·合方氏「掌達天下之道路。通其財利，同其數器，壹其度量，除其怨惡，同其好善。」鄭注「所好所善，謂風俗所高尚。」864。『孟子』告子上「是故文武興，則民好善；幽厲興，則民好暴。」，告子下「夫苟好善，則四海之內，皆將輕千里而來告之以善。」盡心上「古之賢王好善而忘勢，古之賢士何獨不然。」

七 若重規合矩

『潛夫論』思賢「是故雖相去百世，縣年一紀，限隔九州，殊俗千里，然其亡徵敗迹，若重規襲矩，稽節合符。」校正74

八 要言

『抱朴子』內篇·暢玄「夫玄道者，得之乎內，守之者外，用之者神，忘之者器，此思玄道之要言也。」校釋2。『經』卷四十六·道無價卻夷狄法「欲得天心，乃宜旦夕思吾書言，已得其意，即亦得天心矣，其價直多少乎。故賜國家千金，不若與其一要言可以治者也。」46.2b

九 人民不聚

『易林』大壯「未濟，桀亂無道，民散不聚，倍室弃家，逃遁出走。」9.7a

一〇 外附

『史記』秦始皇本紀「內守外附而社稷存。」

二 致大賢聖人仙士

『漢書』蕭何傳「臣願大王王漢中，養其民以致賢人。」2007

三 三光

『莊子』雜篇·說劍「上法圓天以順三光，下法方地以順四時，中和民意以安四鄉。」  
集釋 1022。『經』卷九十一·三光蝕訣「『請問天之三光何故時蝕邪。』『善哉，子之所問。是天地之大怨，天地戰鬪，不知其驗見效於日月星辰。』」92:1a

【原文】

夫上〔善〕之臣子民之屬〔一〕，其為行也，常旦夕憂念其君王也，念欲安之，心正為其疾痛。常樂帝王垂拱而自治也，其民臣莫不象之而孝慈也。上〔二〕得天心，下得地意，中央使萬民莫不歡心〔三〕，無有冤結〔四〕。蚊行之屬莫不嚮風而化〔五〕，萬物各〔六〕得其所，天地和悅〔七〕，人君為增壽〔八〕，上老至于〔九〕嬰兒，不知復為惡。天下且惜其君恐老，天地必使神人持負靈藥告之。帝王服之，壽無窮矣〔一〇〕。

【校勘】 对校本…『太平經』卷四十七「上善臣子弟子為君父師得仙方訣第六十三」

〔一〕 經作「夫上善之臣子民之屬也」。從經。

〔二〕 經云「其為政治，但樂使王者安坐而長游。其治乃上得天心，下得地意」。

〔三〕 經作「中央則使萬民莫不歡喜」。

〔四〕 「結」字下有「失職者也」。

〔五〕 「化」字下有「為之無有疫死者」。

〔六〕 「各」、經作「莫不盡」。

〔七〕 「天地和悅」、經作「天地和合，三氣俱悅」。

〔八〕 「為增壽」、經作「為之增壽益筭」。

〔九〕 「至于」、經作「到于」。

〔一〇〕 經云「皆惜其君且老，治乃得天心，天地或使神持負藥而告子之，得而服之，終世不知窮時也」。

【訓読】

夫れ上善の臣子民の属い、其れ行いを為すや、常に旦夕憂いて其の君王を念うなり、おもいて之れを安んぜんと欲し、心正にして其れの為に疾痛す。常に帝王垂拱して自ずから治まるを樂うなり、其の民臣は之れに象りて孝慈ならざるなし。上は天心を得、下は地意を得、中央は万民をして歡心せざるなからしめ、冤結有らざらしむ。蚊行の属いは風に嚮かいて化せざるなく、萬物は各々其の所を得。天地は和悦し、人君は増壽となる。上老より嬰兒に至り、復た惡を為すを知らず。天下は且つ其の君の恐らく老ゆるを

惜しみ、天地は必ず神人をして靈薬を持負して之れに告げしむ。帝王は之れを服すれば、  
壽窮まり無し。

【訳文】

さて、上善<sup>一</sup>に達した臣下と国民という範疇に入る人は、やるべきことを行う際に  
二、日夜問わず常々<sup>三</sup>自分の君主を気にかけて、君主の心を正しく<sup>四</sup>保ち、君主の為に心  
を痛めることをしたい。いつも君主が何かをすることなく、天下がよく治まっている  
こと<sup>五</sup>を願ひ、国民と臣下には、君主にならない<sup>六</sup>、親を大切にして子供を慈し<sup>七</sup>まない  
人がいない。上は天意に叶い、下は地意に沿い<sup>八</sup>、天地の間は万民<sup>九</sup>を喜ばせ、彼らの  
心の中に溜まっている怨み<sup>一〇</sup>を解消させる。虫のたぐいには感化<sup>一一</sup>されぬものがな  
く、万物はそれぞれ居るべきところに満足している<sup>一二</sup>。天地が和悦し<sup>一三</sup>、君主の寿命  
が延ばされる<sup>一四</sup>。長老<sup>一五</sup>から赤ちゃんまで、また悪いことをしよう<sup>一六</sup>と思わない。天  
下の人々でさえも、君主が年をとって衰えることを心配するのを痛ましく思う<sup>一七</sup>から  
、天地は必ず神人を遣わし、靈薬を持って君主を教え諭すだろう。君主はそれを飲め  
ば、限りなく長生きすることができる<sup>一八</sup>。

一 上善

『老子』第八章「上善若水。水善利萬物而不争。」校釋 31

二 為行

『莊子』雜篇・盜跖「子張問於滿苟得曰、盍不為行、無行則不信、不信則不任、不  
任則不利、故觀之名、計之利、而義真是也。若棄名利、反之於心、則夫士之為行、  
不可一日不為乎。」集釋 1002。

三 旦夕

『尚書』冏命「昔在文武、聰明齊聖。小大之臣、咸懷忠良。其侍御僕從、罔匪正  
人、以旦夕承弼厥辟、出入起居、罔有不欽、發號施令、罔有不臧。」 246

四 心正

合校作「念欲安之心、正為其疾痛」 138

『經』卷九十六「人之至誠，有所可念，心中爲其疾痛，故乃發心腹不而食也。」  
『禮記』大學「古之欲明德於天下者，先治其國。欲治其國者，先齊其家。欲齊其家者，先脩其身。欲脩其身者，先正其心。欲正其心者，先誠其意」，「意識而后心正，心正而后身脩」1673。『漢書』董仲舒傳「故為人君者，正心以正朝廷。」  
2502。『鈔』丁部卷四「夫心者，主持正也。」合校227。『經』卷九十二「心者主正事，倚仁則明，復有神光」合校388。『經』卷九十二・火氣正神道訣「夫火者，乃是天之心也。心主神，心正則神當明。」合校389。『鈔』癸部卷十「念者能致正，亦能致邪，皆從志意生矣。」，「心者，五藏之主，主即王也，王主執正，有過乃白於天也」合校737。

(参考) 『太平經』における長生法は大別して二種類がある。一つは「守一」「存思」であり、第二は善行を積み重ねることである。この二つの方法は実は密接に関連している。『太平經』に置いて①「心」は善悪正邪を判断する中枢器官、②「心」には命を司る「心神」が宿っている、③人間は善を行い、自分の「心」を見つめて体内神を思うことよって寿命を延ばす。(神塚「『太平經』における『心』の概念」『六朝道教思想の研究』創文社、一九九九年。神塚「『太平經』の世界」『道教の神々と經典』講座道教第一巻、雄山閣出版、一九九九年)  
『經』卷四十三「大小諫正法」合校103。『經』卷四十七・上善臣子弟子爲君父師得仙方訣「(上善之弟子)念君父師將老，無有可以復之者(『鈔』作『無以可報之』，『道典論』作『無有可以報復之者』)，常思行(『道典論』無行字)爲師得之」，『道典論』作『無有可以報功者(『道典論』無者字)。惟念之正，心痛也(『鈔』作求)殊方異文，可以報功者(『道典論』無者字)。惟念之正，心痛也(合校作『惟念之正心痛也』，『道典論』作『每悔念之正心痛也』286)，不得奇異也(『道典論』無此句)。」合校142。「今人實惡，不合天心，故天不具出其良藥方也。」合校144。「是故上古三皇垂拱，無事無憂也。其臣謹良，憂其君正，常心痛(合校作『憂其君，正常心痛』)，乃敢助君平天下也。尚復爲其索得天上仙方，以予其君也，故其君得壽也。」合校145。



あるいは「念いて之れを安んぜんと欲し、心正しく」と読むか。

『經』卷九十六・守一入室知神戒「臣者、必當助帝王德君、共安天地六方八洞、得其意、乃國可長安也。欲安之、必當正文。正辭。正言。故以拘校文辭、得以大正、必當群賢上士出、共輔帝王。」合校 435

五 垂拱而自治

『尚書』武成「列爵惟五，分土惟三。建官惟賢，位事惟能。重民五教，惟食、喪、祭。惇信明義，崇德報功。垂拱而天下治。」185

六 民臣莫不象之

『左傳』襄公三十一年「公曰：『善哉，何謂威儀。』對曰：『有威而可畏，謂之威，有儀而可象，謂之儀。君有君之威儀，其臣畏而愛之，則而象之，故能有其國家，令聞長世。』」2016

七 孝慈

『論語』為政「子曰：『臨之以莊則敬，孝慈則忠，舉善而教不能則勸。』」集釋 119。『老子』第十九章「絕聖棄智，民利百倍。絕仁棄義，民復孝慈。絕巧棄利，盜賊無有。」校釋 74

八 上得天心，下得地意

『尚書』咸有一德「克享天心，受天明命。」165。『三國志』吳書・陸凱傳「上應天心，下合地意，天下幸甚。」1402。『鈔』庚部卷七「自古及今，大聖之定，凡事乃去同取異，乃得天地之心意」合校 528。「然未欲大得天地之心意，有益於帝王政理者，乃當順用天地之心意」合校 646 など、「天地の心意」という表現が見える。

九 中央

『老子』第五章「天地不仁，以萬物為芻狗，聖人不仁，以百姓為芻狗，天地之間，其猶橐籥乎，虛而不屈，動而愈出。」校釋 22

一〇 冤結

『尚書』泰誓下「今商王受，狎侮五常，荒怠弗敬。自絕于天，結怨于民。」18。『楚辭』九章・悲回風「悲回風之搖蕙兮，心怨結而內傷。」補注 155

一一 嚮風而化

『莊子』天運「夫白鴟之相視，眸子不運而風化。蟲雄鳴於上風，雌應於下風而風化。類自為雌雄，故風化。」集釋 532。『史記』司馬相如傳「登明堂，坐清廟，恣

羣臣，奏得失，四海之內，靡不受獲，於斯之時，天下大說，嚮風而聽，隨流而化。」3042。『漢書』禮樂志「宜興辟雍，設庠序，陳禮樂，隆雅頌之聲，盛揖攘之容，以風化天下。」1033（譯文從『史記』『漢書』）

一二 各得其所

『周易』繫辭下「日中為市，致天下之民，聚天下之貨，交易而退，各得其所。」86  
天地和悅

『周禮』夏官司馬·擯人「掌誦王志，道國之政事，以巡天下之邦國而語之，使萬民和說而正王面。」865。『鈔』乙部卷二「王者行道，天地喜悅，失道，天地為災異。」合校 17

一四 增壽

『論衡』變虛「善政賢行，尚不能卻，出虛華之三言，謂星卻而禍除，增壽延年，享長久之福，誤矣。」校釋 209（參考）「益算」は『抱朴子』内篇・遐覽に「『立功益算經』」335とある。『老君音誦誡經』に「延年益算」6aという表現が見える。

一五 上老

『尚書大傳』為之「上老平明坐於右塾，庶老坐於左塾。」鄭注「上老，父師也。」5.6a。『鈔』乙部卷六「上老失之，丁壯得之，丁壯失之，少者得之，以類相補，共成一善辭矣。」6.13b

一六 復為惡

『毛詩』小雅·雨無正「周宗既滅，靡所止戾。正大夫離居，莫知我勸。三事大夫，莫肯夙夜。邦君諸侯，莫肯朝夕。庶曰式臧，覆出為惡。」447

一七 惜其君恐老

『楚辭』惜誓「惜余年老而日衰兮，歲忽忽而不反。」補注 227。『抱朴子』内篇·雜應「吳有道士石春，每行氣為人治病，輒不食，以須病者之愈，或百日，或一月乃食。吳景帝聞之曰，此但不久，必當飢死也。乃召取鑊閉，令人備守之。春但求三二升水，如此一年餘，春顏色更鮮悅，氣力如故。景帝問之，可復堪幾時。春言無限，可數十年，但恐老死耳，不憂飢也。」校釋 269

一八 壽無窮

『抱朴子』內篇·金丹「抱朴子曰，按黃帝九鼎神丹經曰，黃帝服之，遂以昇仙。又云，雖呼吸道引，及服草木之藥，可得延年，不免於死也。服神丹令人壽無窮已，與天地相畢，乘雲龍駕，上下太清。」校釋<sup>74</sup>